

1 育みたい具体的な資質・能力を明確にした探究課題の設定

- 教科横断的な学習が充実するようカリキュラムマネジメントの視点から、総合的な学習の時間の目標は、各学校の教育目標を踏まえて設定する。
- ◎ **子どもや地域の実態、総合的な学習の時間の目標を踏まえ、育みたい具体的な資質・能力を明確にして探究課題を設定する。**
- 各教科等との関連や地域の資源の活用、発達段階や学習経験、校種間の接続等に配慮するとともに、全教師の関わりに加えて外部の人材を取り入れるなど、組織的な指導が図られるよう年間指導計画を工夫する。

2 探究のプロセスを重視した学習過程の工夫

- ◎ **探究のプロセスを重視した学習を繰り返し展開できるように、「整理・分析」及び「まとめ・表現」を重視した学習過程を工夫する。**
- 問題の解決や探究的な学習の過程には、他者と協働して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析しまとめたり表現したりする学習活動などが行われるようにする。その際、比較したり、分類したり、関連付けたりするなどの**考えるための技法**を活用する。

3 子どもが自己のよさに気付く評価の工夫

- ◎ **子どもが自己の変容を振り返り、今後の取組に生かすことができるよう、自己評価、相互評価を工夫する。**
- 学習の状況や成果などについて、一人一人のよさや学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて適切に評価する。

主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業を充実させるための実践例

1 目標を実現するにふさわしい探究課題を設定し、計画を立てる

【例】実生活の中で問いを見だし、子どもの学習活動が豊かに広がっていく教材

地域で起きる災害から身を守るには？

【児童A】 近くの川では、堤防の工事をしているぞ。堤防の高さはどれくらいあるのかな。

【児童B】 私たちの地域で起きるかもしれない災害には、どのようなものがあるのかな。

【児童C】 いざというときのために、救命救急法について学びたいな。

・町役場に行くと、防災対策がわかるかな。
・消防士さんに教えていただけないかな。

2 情報を収集する

3 情報を整理・分析する

4 まとめ・表現する

5 新たな課題を設定し、発展させる

もしも堤防が決壊すると、この範囲まで浸水するから...

まとめでは、根拠を示して説得力のある説明となるよう工夫しましょう。

お年寄りの避難について、私たちにできることは何だろうか。

今度、お年寄りが近所に住んでいるかどうか調べることにしよう。

*ここまでの学びを振り返り、気づきを促す。新たな気づきを基に探究を深める。